

<藤山台中学校区・岩成台中学校区>
学校統合に向けた第3回意見交換会 次第

日 時 令和8年3月1日（日）
午前10時から正午まで

場 所 東部市民センター 多目的室

- 1 開会
- 2 学校統合に向けた検討について説明・意見交換
- 3 参加者どうしによる意見交換
- 4 その他
- 5 閉会



市ホームページ

これまでに実施した、学校の適正規模等に関するアンケート結果及び意見交換会の会議録を掲載しています。

I 小中学校の適正規模等の取組について

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57% 減少の 13,312 人に、中学生の人数は、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59% 減少の 6,221 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、本市では、学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。

1 学校規模の区分

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	(中学校のみの区分) 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

(1) 小学校における学校規模の区分

学級数	～ 6	7～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

(2) 中学校における学校規模の区分

学級数	～ 3	4～5	6～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	やや 小規模	適正規模	大規模	過大規模

2 学級数の基準

学級数については、次の 1 学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学 年	人 数
小学 1 年生～中学 1 年生	35 人
中学 2 年生及び中学 3 年生	40 人

※ 中学 2 年生は令和 8 年度以降、中学 3 年生は令和 9 年度以降について、1 学級あたり 35 人で推計しています。

3 学校規模によるメリット・デメリット

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」P18、19、22からの抜粋

(1) 規模が小さい学校のメリット

- ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
- ④ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑤ 教材や教具などを一人ひとり行き渡らせやすい。
- ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ⑧ 児童生徒の家庭の状況や地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

(2) 規模が小さい学校のデメリット

ア 学級数が少ないことによる課題

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤ 運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの集団活動や行事の教育効果が下がる。
- ⑥ 上級生と下級生間のコミュニケーションが少なくなる。学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑧ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑨ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑪ 生徒指導上の課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑫ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑬ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

イ 教職員数が少なくなることによる課題

- ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④ ティーム・ティーチングやグループ別指導、習熟度別指導、専科指導などの多様な教育方法をとることが困難となる。
- ⑤ 教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥ 学年によって学級数や学級あたりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる。
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会などに参加することが困難となる。
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい(学年会や教科会などが成立しない)。
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

ウ 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ④ 教員それぞれの専門性を活かした教育を受けられない可能性がある。
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある。
- ⑦ 進学などの際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

(3) クラス替えが可能になることによるメリット

- ① 児童生徒同士の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。
- ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
- ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ④ クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができる。
- ⑤ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる。
- ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。
- ⑦ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる。

4 本市の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
小規模	
やや小規模 (中学校のみ)	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

5 最優先に検討する中学校区

中学校区で見た場合に、将来、全ての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される中学校区（坂下・藤山台・高森台・石尾台・岩成台）にある学校について、最優先に検討することとし、取組を進めています。

- (1) 坂下中学校区
坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校
- (2) 藤山台中学校区
藤山台中学校、藤山台小学校
- (3) 高森台中学校区
高森台中学校、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校
- (4) 石尾台中学校区
石尾台中学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校
- (5) 岩成台中学校区
岩成台中学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

6 これまでの取組

- (1) 令和7年2月
「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定
- (2) 令和7年4月～5月
小中学校のPTA役員への説明、意見交換
- (3) 令和7年5月～6月
保護者、子どもアンケートの実施
- (4) 令和7年6月～7月
地域アンケートの実施
- (5) 令和7年9月～10月
第1回意見交換会の開催
- (6) 令和7年11月～12月
第2回意見交換会の開催

Ⅱ 児童生徒数推計について

(1) 藤山台中学校区

令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定されます。

ア 藤山台中学校 ※R15 から「小規模」、R16 から「過小規模」になると推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	60	2	70	2	59	2	51	2
2 年	55	2	59	2	69	2	58	2
3 年	75	2	54	2	58	2	68	2
合 計	190	6	183	6	186	6	177	6

イ 藤山台小学校 ※R11 から「小規模」になり、R22 では「過小規模」であると推定

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	42	2	42	2	42	2	39	2
2 年	58	2	41	2	41	2	41	2
3 年	43	2	57	2	40	2	40	2
4 年	50	2	42	2	56	2	39	2
5 年	55	2	49	2	41	2	55	2
6 年	69	2	54	2	48	2	40	2
合 計	317	12	285	12	268	12	254	12

※ R19 までは、R7 の 0 歳から 5 歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
43	2	56	2	42	2
50	2	42	2	55	2
57	2	49	2	41	2
150	6	147	6	138	6

R19 (過小)	
生徒数	学級数
27	1
28	1
27	1
82	3

R22 (過小)	
生徒数	学級数
23	1
21	1
29	1
73	3

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
35	1	35	1	31	1
38	2	34	1	34	1
40	2	37	2	33	1
39	2	39	2	36	2
38	2	38	2	38	2
54	2	37	2	37	2
244	11	220	10	209	9

R22 (過小)	
児童数	学級数
19	1
26	1
20	1
23	1
21	1
27	1
136	6

(2) 岩成台中学校区

令和22年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が1学級の「過小規模」とであると推定されます。

ア 岩成台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学年	R7 (やや小)		R8 (やや小)		R9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	80	3	91	3	89	3	89	3
2年	75	2	79	3	90	3	88	3
3年	80	2	74	2	78	3	89	3
合計	235	7	244	8	257	9	266	9

イ 岩成台小学校 ※R11から「過小規模」と推定

学年	R7 (小)		R8 (小)		R9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	27	1	30	1	31	1	30	1
2年	35	1	27	1	30	1	31	1
3年	38	2	35	1	27	1	30	1
4年	33	1	38	2	35	1	27	1
5年	38	2	33	1	38	2	35	1
6年	30	1	38	2	33	1	38	2
合計	201	8	201	8	194	7	191	7

ウ 岩成台西小学校 ※R12から「小規模」になり、R22では「過小規模」と推定

学年	R7 (適正)		R8 (適正)		R9 (適正)		R10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	50	2	42	2	42	2	37	2
2年	38	2	50	2	42	2	42	2
3年	51	2	38	2	50	2	42	2
4年	58	2	51	2	38	2	50	2
5年	46	2	59	2	51	2	38	2
6年	52	2	46	2	60	2	51	2
合計	295	12	286	12	283	12	260	12

【参考】岩成台小学校、岩成台西小学校の合計

学年	R7 (適正)		R8 (適正)		R9 (適正)		R10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	77	3	72	3	73	3	67	2
2年	73	3	77	3	72	3	73	3
3年	89	3	73	3	77	3	72	3
4年	91	3	89	3	73	3	77	3
5年	84	3	92	3	89	3	73	3
6年	82	3	84	3	93	3	89	3
合計	496	18	487	18	477	18	451	17

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
92	3	70	2	76	3
88	3	91	3	69	2
87	3	87	3	90	3
267	9	248	8	235	8

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
37	2
54	2
57	2
148	6

R22 (過小)	
生徒数	学級数
31	1
29	1
31	1
91	3

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
29	1	26	1	17	1
30	1	29	1	26	1
31	1	30	1	29	1
30	1	31	1	30	1
27	1	30	1	31	1
35	1	27	1	30	1
182	6	173	6	163	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
11	1
14	1
15	1
13	1
15	1
12	1
80	6

R11 (適正)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
37	2	28	1	20	1
37	2	37	2	28	1
42	2	37	2	37	2
42	2	42	2	37	2
50	2	42	2	42	2
38	2	50	2	42	2
246	12	236	11	206	10

R22 (過小)	
児童数	学級数
20	1
15	1
21	1
23	1
19	1
21	1
119	6

R11 (適正)		R12 (適正)		R13 (適正)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
66	2	54	2	37	2
67	2	66	2	54	2
73	3	67	2	66	2
72	3	73	3	67	2
77	3	72	3	73	3
73	3	77	3	72	3
428	16	409	15	369	14

R22 (小)	
児童数	学級数
31	1
29	1
36	2
36	2
34	1
33	1
199	8

Ⅲ アンケート結果について

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】
児童アンケート …【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

1 藤山台中学校区

- ・ 小学校回答者数… 398 人（保護者 180 人、児童（3～6 年生）172 人、地域の方 46 人）
- ・ 中学校回答者数… 266 人（保護者 102 人、生徒 164 人）

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校の保護者で約 7 割、地域の方で約 9 割、中学校の保護者で約 8 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成
「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

① 小学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台小	【保護者】	66.6%	26.7%	6.7%
	【地域】	86.9%	13.1%	0%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台中	【保護者】	77.5%	19.6%	2.9%

2 岩成台中学校区

- ・ 小学校回答者数・・・ 754 人（保護者 339 人、児童（3～6 年生）348 人、地域の方 67 人）
- ・ 中学校回答者数・・・ 335 人（保護者 152 人、生徒 183 人）

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 6 割、地域の方で約 7 割、中学校の保護者で約 6 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成
 「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	58.1%	32.4%	9.5%
	【地域】	71.6%	9.0%	19.4%
岩成台小	【保護者】	60.2%	28.8%	11.0%
	【地域】	73.5%	11.8%	14.7%
岩成台西小	【保護者】	56.3%	35.8%	7.9%
	【地域】	69.7%	6.1%	24.2%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
岩成台中	【保護者】	61.8%	27.6%	10.6%

IV 意見交換会でのご質問・ご意見について

1 第1回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、各中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

ア 藤山台中学校区

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方や市の考え方についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや他市の事例についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	藤山台中学校 (9月22日)	藤山台小学校 (10月15日)
参加者数	6人	18人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (5) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・アンケートについて (3) ・過大規模校への対応について (2) ・市の考え方について (1) ・学校選択制について (1) ・1学級の人数について (1) ・他市の事例について (1) ・避難所について (1) ・学校施設の改修について (1) ・地域の活動について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の考え方について (3) ・魅力ある学校づくりについて (3) ・授業の内容について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (2) ・1学級の人数について (1) ・その他の市の施策について (1) ・過小規模校の調査・検証について (1) ・先生の意見について (1) ・統合に関することについて (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・学校選択制について (1) ・アンケートについて (1) ・他市の事例について (1) ・通学について (1) ・PTA 役員との意見交換について (1)

イ 岩成台中学校区

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方やスケジュール、学校の跡地についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや市からの情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	岩成台中学校 (9月26日)	岩成台小学校 (9月29日)
参加者数	6人	23人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートについて (3) ・統合に関することについて (2) ・学校跡地について (2) ・スケジュールについて (2) ・その他の市の施策について (2) ・児童生徒数推計について (1) ・意見交換会について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・地域クラブの運営について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・学校跡地について (2) ・情報発信について (2) ・魅力ある学校づくりについて (2) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・統合に関することについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・学童について (1) ・通学について (1) ・学校施設の改修について (1) ・避難所について (1) ・その他の市の施策について (1)

学校名 (開催日)	岩成台西小学校 (10月3日)
参加者数	19人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (3) ・1学級の人数について (3) ・児童生徒数推計について (2) ・その他の市の施策について (2) ・通学バスについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・スケジュールについて (1) ・学校跡地について (1)

※意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。

2 第2回意見交換会

第1回意見交換会の意見などを踏まえ、藤山台中学校区、岩成台中学校区それぞれの学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、各中学校区全体で意見交換を行いました。

藤山台中学校区の意見交換会では、意見交換会についてや、不登校の子どもたちへの対応についての質問が多くありました。また、統合に関する市の考え方や小中一貫校について、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。

岩成台中学校区の意見交換会では、統合に関する市の考え方についての質問が多くありました。また、通学バスや魅力ある学校づくりについて、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。

中学校区 (開催日)	藤山台中学校区 (11月29日)	岩成台中学校区 (11月22日)
参加者数	11人	22人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会について (3) ・不登校の子どもたちへの対応について (3) ・統合に関する市の考え方について (2) ・小中一貫校について (2) ・他自治体の事例について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・統合前の学校間の交流について (1) ・統合する場合の部活動について (1) ・通学バスについて (1) ・ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・統合の具体案を示すことについて (1) ・地域クラブ活動について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関する市の考え方について (5) ・通学バスについて (2) ・魅力ある学校づくりについて (2) ・他自治体の事例について (1) ・地域の活動について (1) ・小人数学級について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・通学区域の変更について (1) ・児童生徒数推計について (1) ・ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・教員の配置について (1) ・小中一貫校について (1) ・学童について (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・今後のスケジュールについて (1)

※ 意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。

第1回意見交換会 質疑応答一覧

1 藤山台中学校区

(1) 藤山台中学校

No.	質 問	回 答
1	市の1学年に2学級以上必要という考え方は変わらないのか。	1学年に複数学級がありクラス替えができることで、子どもたちが新しい人間関係を築き子どもたちの社会性が成長することや、集団で行う授業が実施できることなどのメリットがあります。また、教員が1学年に複数配置されることで、教員が切磋琢磨する環境が生まれ、その好影響が子どもへフィードバックされることも考えられます。
2	学校選択制について議論することはあるのか。春日井市では、一部の学校で先進的な教育を実施していることから、学校を選択できないことが公平な教育を受けることができないと考えられるのではないのか。	本市では、原則、居住地によって学校を指定しています。学校選択制は、学校ごとに人数の偏りが生じるなどの課題があることから検討していません。 ICT等の先進的な教育を実施している学校もありますが、市内の学校には取組の成果の水平展開を進めています。また、いずれはその取組がスタンダードになり、学習指導要領が変わっていくと考えています。
3	小学校に関して、1学級あたりの子どもの数を減らして、学級数を増やす対応を取ればよいのではないのか。	本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校の2、3年生は40人としており、その基準をもって教員数が配置されています。1クラスあたりの子どもの数を減らし学級数を増やしても、教員が配置されないことから、市独自の基準で実施することは困難です。
4	中学校は統廃合を行い、小学校は現状のままという選択肢はあるのか。	現状、統廃合ありきで考えていません。地域コミュニティの実情や地域の特性などはそれぞれ異なるので、今後皆様と検討を重ねていきたいと考えています。
5	地域の方が現状のままでよいという意見であった場合、学校を残すこともあるのか。	アンケート結果からは、多くの方が市の取組に賛成しています。ただし、今後の検討において、皆様の考えが変わることもあるかもしれませんので、選択肢としてはあると考えています。
6	今後の方向性を示すタイミングはいつ頃を考えているのか。	今回の意見交換会は、学校の適正規模や適正配置の取組に対し、まずは様々な立場の方の意見をお聞きしたいと考え開催しました。いただいた意見を踏まえて、より具体的に今後の方向性を示したいと考えています。時期は未定ですが、スピード感をもって取り組んでいきます。
7	大規模校に通っている子どもの保護者から、教員の目が行き届いていないという話を聞いた。学校の適正規模等について考える際には、いろいろな方の意見をもっと聞くべきだと思うので、適切にアピールしてほしい。未就学児の保護者などにもわかりやすい説明に努めてほしい。子どもが中学校を卒業して学校に関係がなくなってしまう方や地域の方にも周知する方法を考えてほしい。	検討にあたっては、様々な方の意見をいただきたいと思っています。次回は、中学校区単位で意見交換会の実施を考えており、その際は、より多くの方が参加しやすいように土曜日や日曜日に開催することを考えています。日程が決まりましたら、改めてご連絡します。

No.	質 問	回 答
8	近隣地域の情報を提供してもらえると保護者の視野も広がるので、適切な周知をお願いしたい。	近隣市の状況においては、小牧市が篠岡地区で学校統合に向けた動きが進んでいます。また、他の県内他市でも検討が進んでいると聞いています。今後の検討にあたり、このような情報も提供していきます。
9	春日井市では統合ありきで考えているのか。今後、ニュータウン全体で学校を統合することや、小中一貫校にするといった考えはあるのか。	統合ありきではありません。 将来的にはニュータウン地区全体での子どもの人数は減少すると考えており、ニュータウン全体を俯瞰して考える時期がくると考えています。 また、小中一貫校を導入するかは、導入することによるメリット、デメリットなどを慎重に協議していきたいと考えています。
10	仮に統合すると考えた場合、新しい校舎を建てるのか、古い校舎を改修するのか何か基準はあるのか。	具体的な基準はありません。統合となった場合は、既存の校舎をそのまま活用する方法、既存の校舎を大規模改修して使う方法、新しく校舎を建設する方法が考えられます。今後、地域の方からの意見や市の財政状況などを踏まえ、検討していきます。
11	現在、部活を通じて他校との交流がなされている。仮に統合になった場合、事前に交流をしっかりと行うなどといった考えはあるのか。	具体的には決まっていますが、仮に統合となった場合、子どもたちがスムーズに対応できるように事前に交流の場を設けるなど検討が必要と考えています。
12	学校には避難所としての機能がある。仮に統合となった場合、地域に避難所がなくなることについて、市はどのように考えるのか。体育館の代替について、案はあるのか。	学校は防災などで地域の重要な拠点となっていることから、仮に統合する場合でも、地域の方が災害時にこれまでと比べてなるべく不便にならないように検討したいと考えております。
13	地域の方のアンケートについて、反対の割合が0%であったが、回答人数が46人であった。地域の方はどのような基準で選び、何人の方に送ったのか。	地域アンケートは、案内チラシを7月号の広報に合わせて、坂下、ニュータウン地区の約25,000世帯に配布し、6月26日から7月13日の期間で実施しました。
14	地域アンケートは、対象地区全体で何人回答されたのか。	436人です。
15	今回のアンケートの中で、少人数学級の方が良いという意見はなかったのか。	「学校の規模や配置を見直す場合に心配なこと」の質問では、多くの方が登下校のことを心配されていましたが、他に、きめ細かな教育が受けられなくなるなどの意見がありました。
16	中学校の校舎を安全できれいにしてもらいたい。どれくらい改修するのにかかるのか。	基本設計、実施設計をした後に工事をすることから、5年程度は必要と考えています。
17	統合が決定すると、現在の地域での活動はどうなるのか。	統合された場合は、一つの新しい集まりになると考えますが、今までの活動がなくなるわけではないです。地域によってそれぞれの良さがあるので、先進的に実施している活動を水平展開することや、学校と地域が引き続き協力し合うことが必要だと考えています。
18	各地区で特性が違う。藤山台地区と近隣の地区が合同で話を聞くことができる機会を作ってほしい。	今後の進め方について、年内に藤山台小学校を含めた藤山台中学校区の意見交換会の開催を考えています。その後、保護者や地域の代表の方、学校関係者を含めた協議会のようなものを立ち上げて検討を進め、状況に応じて、他の地区との合同で意見交換できるような機会も開催したいと考えています。

No.	質 問	回 答
19	<p>(意見)</p> <p>過大規模校になっている学校もある。まずは過大規模校を解決してから過小規模校を解決するべきと考える。</p>	
20	<p>(意見)</p> <p>小規模校の関係者だけに意見を聞くのではなく、過大規模校など他の学校の方にも意見を聞いた方が良いと思う。</p>	

(2) 藤山台小学校

No.	質 問	回 答
1	押沢台小学校の学級数も少ないが今回の対象には入っていないのか。	検討の対象です。
2	きめ細かな教育のためにも 35 人学級の基準で学校の適正規模を考えるのではなく、1 学級あたりの人数を減らして考えればよいのではないか。	本市の 1 学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学校 1 年生は 35 人、中学校の 2、3 年生は 40 人としており、その基準をもって教員が配置されています。1 学級あたりの人数を減らして学級数を増やしても、教員が不足するという問題が起きるため、難しいと考えています。
3	小中学校の適正な規模等に関する検討だけでなく、子どもの数を増やす施策は考えていないのか。	現在、ニュータウン創生課が中心となって、ニュータウンに関する施策に取り組んでいます。また、市では子育て支援にも力を入れており、こどもの家やなかよし教室の充実などの施策に取り組んでいます。それ以上に少子化が進んでいる現状があります。ニュータウン施策と子どもたちの教育環境を充実させるということを同時並行で進めていきたいと考えています。 瀬戸市では、複数の学校を統合した「にじの丘学園」ができたことにより、人口が増えていることを聞いています。本市も人が集まるような魅力的な学校を皆様と一緒に作りたいと考えています。
4	ニュータウン地区の人口増加について、ニュータウン創生課だけに任せるのではなく、教育委員会も考える必要があると思う。	ニュータウン創生課だけに任せるわけではなく、教育委員会としてもニュータウン施策の一つとして、魅力ある学校づくりを考えています。
5	魅力ある学校という概念だけでなく、具体的なことを教えてほしい。	現時点では、皆様の意見を聞く段階と捉えており、「にじの丘学園」のような小中一貫校も、魅力的な学校をつくるための一つの手段として考えています。今後、皆様と協議し一緒に考えていきたいと思っていますので、今の段階で案を示すということは難しいです。
6	藤山台中学校と藤山台小学校を小中一貫校のような形での運用はどうか。	藤山台中学校と藤山台小学校の児童生徒数推計では、小学校、中学校ともに 1 学年に 1 学級になると推計しています。本市は、各学年でクラス替えができる学校規模が必要という考えで取組を進めています。仮に小中一貫校にしても、クラス替えのできない学年があることから難しいと考えています。
7	探究的な学びを通して個性を伸ばし、社会で活躍できる人材を育ててほしい。	藤山台小学校と藤山台中学校は ICT 教育を通して先進的な教育を実施しています。藤山台地区をモデルとして、他の地区の学校にも展開したいと考えています。

No.	質 問	回 答
8	統合するとなった際のスケジュールを教えてください。	<p>現時点で統合ありきではないということをご理解いただきたいと思います。</p> <p>今後のスケジュールについては、今回、学校ごとの意見交換会で皆様から意見をいただき、次は藤山台中学校区全体で2回目の意見交換会の実施を考えています。その後については、保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成される協議会のようなものを立ち上げ、具体的な検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>仮に統合となった場合も、学校施設について、既存の学校を使う場合、リニューアルする場合、新しい校舎を建てる場合によって期間が異なります。大規模な工事や改修をするとすると、設計の期間と工事の期間を合わせ、5年程度の期間が必要になると考えています。</p>
9	過小規模校と適正規模校における人間関係や教育などの違いについて調査や検証はしているのか。	<p>過小規模校を経験した先生からは、中学校に進級する際、急にクラス数が増えるため適応が難しい子どももいると聞いています。また、瀬戸市で実際に複式学級の担任を経験された先生からのお話では、環境変化に適応できるように中学校や人数の多い学校と交流し、学ぶ体験をする取組を行っているそうです。</p> <p>調査や検証について、小規模校の児童一人ひとりの心の成長を把握していないので、先生の声を参考にしています。</p>
10	学校の先生方に意見を聞くことで、現場で何が困っているのかなど具体的に知ることができると思うので是非検討してほしい。	<p>検討の対象となっている学校の先生からお話を聞いたりしています。これからも小規模、過小規模校の先生からの意見を聞き、皆様とも情報共有していきたいと考えています。</p>
11	小中学校の適正な規模等に関する検討はいつから始まったのか。また、いつまでを期限と考えているのか。	<p>検討を始めたのは昨年度で、令和7年2月に、市の基本的な考え方をまとめて公表しています。</p> <p>いつまでに実施するという事は明確に定めていません。今回対象になっている中学校区については、今の児童生徒数の推計を見ると、中学校区全体として、小規模、過小規模になると推計しているので、市としては早く取り掛かりたいと考えています。ただ、市が独断で進めるのではなく、皆様と議論を重ねて、意見がまとまった地区から可能な限り早く着手したいと思っています。</p>
12	藤山台小学校の校舎は比較的新しいが、学校の適正な規模等に関する検討が進んで、校舎が使用されなくなることはあるのか。	<p>仮に統合するとなった場合、どこの校舎や学校用地を使うということは今後検討していきたいと考えています。藤山台小学校を引き続き使用するかどうかは、現時点ではお答えできませんが、新しく機能が充実している学校なので、有効活用する方法を考えなくてはならないと思います。</p>
13	過去に藤山台小学校が3校統合された際は、現在のような児童数推計になると予測できていなかったのか。	<p>少子化の進行が予測以上に速く、現在の児童数になるとは想定できませんでした。</p>

No.	質 問	回 答
14	<p>越境通学を可能にしてほしい。実現できれば、他の市にはない春日井市の大きな特徴となると思う。また、不登校の子どものことを考えて、不登校の子どもたちが集える場所を提供してほしい。</p> <p>一番意見を出すことができる、保護者が意見交換会に来ていない。適正規模や適正配置などの言葉が難しく感じるため、わかりやすく表現してほしいと思う。</p>	<p>学校選択制について、通学区域の見直しなどは今回の適正規模の検討に合わせて慎重に考える必要があると思います。また、不登校の問題については、本市としても問題意識を持っており、適正規模の課題とは別にしっかりと検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>適正規模や適正配置などの言葉について、保護者の方にアンケートを取らせていただいたときは「魅力ある学校づくり」とさせていただきました。ご意見のとおりに、適正規模や適正配置だとわかりにくい方も多いと思います。今後は、皆様が理解しやすいような表現を心掛けていきます。</p>
15	<p>藤山台小学校、藤山台中学校はICT教育に力を入れているが、ICTだけでなく実際に字を書くことや、紙の教科書で勉強するなどの経験も必要だと思う。</p>	<p>一人一台端末が入ったタイミングで新型コロナウイルス感染症が流行したため、接触機会を減らしながら子どもの教育環境を守ることが大きくクローズアップされました。ICTを活用した教育だけでなく、自分で字を書いて紙の教科書を使うといった経験も大事だと思います。ICTと体験的な活動のどちらも必要であり、両立できるように取り組んでいきたいと思ひます。</p>
16	<p>春日井市で子どもの権利条例が作成されつつあるが、子どもの意見はどの程度反映されているのか。また、きめ細かな教育や通学距離について不満を持つ保護者の意見が資料には書かれていないので、反対と考えている人の理由が知りたい。</p>	<p>学校の適正な規模の検討を進めるにあたって、保護者の方に加えて、小学校3年生以上の子どもたちにも、学校を通じてアンケートを実施しました。本日の資料の中では一部抜粋という形でお示しさせていただいておりますが、詳しい内容は市ホームページに掲載しているのでそちらをご確認いただきたいと思います。</p> <p>市が取組を進めるにあたり、保護者の方からの反対の意見として、「登下校の時間や距離に変化があること」と答えた方が反対の方のうちの58.4%でした。また「環境変化による子どもへの影響があるから」と答えた方は33.3%、「きめ細かな指導が受けられる可能性があるから」と答えた方は8.3%でした。藤山台小学校で反対と答えた方の理由はこの3つでした。</p>
17	<p>新聞で小牧市の篠岡地区で段階的に再編の検討が進んでいると知った。春日井市の隣に位置する小牧市も瀬戸市も、小中一貫校の検討が進んでいる。そういった話を聞くと、規模の小さい学校できめ細かな教育ができる環境も重要だと思う。他市の状況を春日井市はどのように捉えているのか。</p>	<p>小牧市や瀬戸市とは情報交換をしています。学校規模という観点からは、両市とも現状の学校規模が小さくなってきており、児童生徒数の推計から1学年1クラスになるという状況を踏まえ、統合という手段を使って一定の学校規模を確保しようと検討を進めており、本市と同じ方向性であると認識しています。</p> <p>小中一貫校については現時点では明確なビジョンを持っていませんが、今後小中一貫校や義務教育学校のメリット、デメリットをお示ししながら、皆様と協議していきたく考えています。</p>
18	<p>子どもに藤山台小学校の適正な規模について話したら、1クラスになってクラス替えがなくなることや不安がっていたが、通学距離が長くなることも心配していた。</p> <p>通学の際、子どもの負担を減らせるような工夫を一緒に考えてほしい。</p>	<p>アンケートにおいて、保護者の半数以上が登下校に関することを心配していました。市としても子どもたちの負担が増えないようにするため、バスを含めた通学手段などの検討をする必要があると考えています。</p>

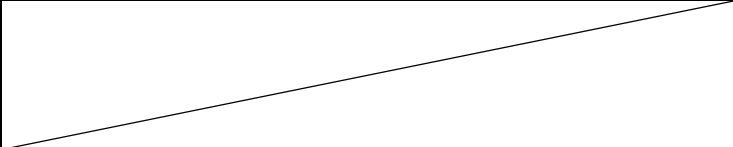
No.	質 問	回 答
19	<p>4月から5月にPTA役員への説明会があったということだが、その時にどのような意見があったか。</p>	<p>PTA役員への説明会では、「現状子どもの数は少ないが仲良くできている。人数が多くなると、先生の目が行き届かなくなりトラブルが発生することが不安。」との意見がありました。こちらについては、「子どもの数が多くなるということは、配置される教職員も増えるので、先生も意識して、十分に目が届くような体制を整えていきます。」とお答えしています。</p> <p>また、「以前、藤山台小学校を統合した際、現在の人口減少を見据えていなかったのか。」との意見がありました。この意見には、「当時はここまでの減少を予測できていませんでした。」とお答えしています。</p> <p>「藤山台地区の団地が今の時代のニーズに合っておらず、空き家だらけである。人口流入のような施策をURに働きかけてほしい。」や「藤山台小学校はICT教育に注力しているが、藤山台中学校はどうか。」といった意見もいただいています。</p> <p>他にも、藤山台中学校について、「校舎やトイレが古いので改修工事をしてほしい。」など、中学校の環境を改善してほしいといった意見を多くいただきました。</p>
20	<p>未就学児の保護者を多く加えて協議会を開催してほしい。</p>	<p>アンケートの際は、保育園や幼稚園に通っている未就学児の保護者にも協力していただきました。今後、協議会を設置する際にも未就学児の保護者に参加していただける体制を作っていきたいと考えています。</p>
21	<p>各家庭が判断して好きな学校に通わせることができれば良いと思う。</p> <p>またICT教育を春日井市は全面的に押し出しているが、体験的な学習をもっと増やして、特色ある学校をつくってほしい。</p>	<p>将来的にどのようにしていくか、現状で決定事項はありませんが、保護者や子どもが自身で学校を選び、満足して通うというのは1つの手段ではあると思います。ただ例えば、市の西部地区に住んでいる人が東部地区の学校を選んだ際に、市が子どもを学校まで連れていくといった対応は難しいので、通学に関する課題はあると考えられます。他にも、例えば藤山台小学校が家から近くても、人数が多いため入学することができないといった問題が起こることも考えられます。</p> <p>学校選択制も貴重な意見としていただいて、地区の状況や課題を研究し、より良い教育環境を目指していきます。</p>

2 岩成台中学校区

(1) 岩成台中学校

No.	質 問	回 答
1	現在の岩成台中学校には部活の数が少なく、所属している子どもの数も少ない。地域クラブに所属する子が増えて、部活に入る子が少なくなり部活が成り立たない。子どもの数を増やすことを考え、中学校区をまとめてほしい。	岩成台中学校区は、このままの児童生徒数推計でいくと中学校区の中だけでは適正規模の確保ができなくなると推計されます。今後、近隣の中学校区と合わせて検討する必要があると考えます。
2	岩成台中学校と藤山台中学校は距離も近いし、統合すべきだと思う。部活動を盛り上げるためにも一定規模の子どもの数が必要ではないか。	児童生徒数が減少すると、過去のように盛んな部活動ができなくなると思います。子どもたちの活動の場を確保するためにも、市では一定規模の学校が必要と考えており、生徒数が増えれば、教員数も増え、盛んな部活動ができるのではないかと考えます。
3	地域の方へのアンケートの実施方法を確認したい。対象の世帯数、回答数はどのくらいあったのか。	地域アンケートは、インターネットによるアンケートで実施し、7月の広報配布に合わせて、案内チラシを坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5中学校区で約25,000世帯に配布しました。また、市の公式LINEやホームページでお知らせし、町内会未加入世帯への対応をしています。回答数は、岩成台小学校区にお住まいの方で34人、岩成台西小学校区にお住まいの方で33人であり、中学校区でみると合計67人の方から回答をいただいています。
4	令和22年度の推計値の算出根拠を確認したい。	春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンの数値から、各地域の推計値を算出しています。
5	学校の話も大事だが、子育て世帯を増やさないといけない。人口が減っていく中、市全体で対策を考えないといけない。	市ニュータウン創生課では、ニュータウン地区の活性化を目的に様々な施策に取り組んでいます。また、UR都市機構も若い人を呼び込む施策を進めており、市と協力して取組を進めているところです。 今後、子どもの数が少なくなっていくという状況の中で、市としては、ニュータウンの活性化と、子どもの教育環境の向上の両方の取組を並行して進めていきたいと考えています。
6	ニュータウンに住むだけではなく、人が集まるお店や働く場所の誘致も考えてほしい。	春日井市は交通の便からみても、利便性の高いまちだと言えます。今後も企業誘致の取組などを進めたいと考えています。
7	アンケートの結果について、市はどう考えているか。回答されなかった人の意見はどうなるのか。	地域の方の回答率は低かったですが、保護者の方からは多くの回答をいただきました。アンケート結果も参考にし、これから皆様と協議していきたいと考えています。今後も意見交換会などの機会を設け、多くの方から意見をいただきたいと思います。

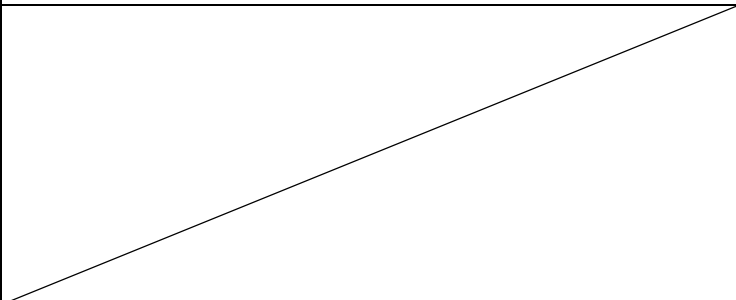
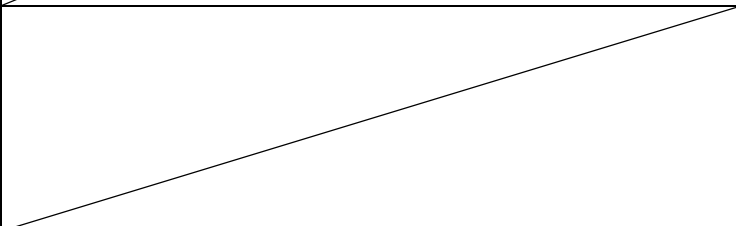
No.	質 問	回 答
8	<p>今後のスケジュールを知りたい。</p>	<p>スケジュールはまだ決まっていません。この地区の方向性について住民の皆様と市との合意形成ができるタイミングによって、今後の進め方が変わってきます。</p> <p>仮に統合と決まった場合、学校をリニューアルする場合や、新しい学校をつくる場合など工事が必要になれば、5年程度の期間が必要になると考えます。既存の学校を使用するのであれば、より早い期間で取組が進むと考えます。</p>
9	<p>この学校の卒業生としては、もし学校がなくなるのであれば寂しい気持ちがある。統合するとなったら、跡地はどうなるのか、跡地の利活用の方法を示してから、統合を行うことになるのか。</p>	<p>小学校の体育館は、避難所や投票所としての機能もあり検討する必要がありますが、一番に考えることは子どもの教育環境の向上だと考えています。</p> <p>仮に統合するのであれば、跡地の問題は統合後の課題として、別に市全体で検討していきます。</p>
10	<p>藤山台小学校を統合した際は、反対意見が多かったが、跡地の利活用について説明をして納得されたという話を聞いた。今回は跡地の検討は統合後に決める話なのか。</p>	<p>学校の適正規模等の目的は、子どもの教育環境の向上であり、跡地の問題は別に検討していきたいと考えています。</p>
11	<p>藤山台小学校では5年くらいかけて統合されたと理解しているが、岩成台地区ではどうなるのか。</p>	<p>藤山台小学校は3校を統合してできた学校で、検討から6年程度かけて取組を進めました。当時は、地域の方や学識経験者などで組織された会議から統合すべきという答申があり、それを受けて、統合することを前提にして地域で説明を行っています。</p> <p>今回は藤山台小統合の時と進め方が違いますが、意見交換会の後に協議会を立ち上げたいと考えています。仮に統合すると決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合で期間は変わってきます。新しい学校をつくる場合やリニューアルする場合では、設計と工事の期間で5年程度必要となります。</p>
12	<p>子どもの数が減っている中、学級数が減って、クラス編成ができないのは学校としては健全な状態ではないと考える。運動会などの行事も盛り上がらない。</p> <p>取組に必要な時間を考えると、今回の検討に取り掛かるのが遅いくらいだと思う。</p> <p>市は丁寧な説明を心掛けていると思う。今後、住民からは様々な意見が出ると思うが、個々の意見ではなく、全体を見て進めていくようお願いしたい。踏み込んだ検討をお願いしたい。</p>	<p>スピード感を持って検討を進めていきたいと考えます。</p>

No.	質 問	回 答
13	<p>周りの保護者に説明会に行くか尋ねたところ、行かない人が多かった。その理由として、「開催時間が忙しい時間帯だから行けない」ではなく、「統合に関して答えが出ているだろうから、参加しても仕方がない」という意見が多かった。多くの方が意見交換会に参加できる工夫を考えてほしい。</p>	<p>年内に中学校区単位で2回目の意見交換会の開催を予定しています。市からの情報発信もしっかり行いますが、皆様からも意見交換会への参加を呼びかけていただきたいです。</p>
14	<p>地域アンケートの回答が少なかったとのことだが、高齢者などにはQRコードを読み込むことが難しい方も多いのではないかと。</p>	<p>回答の総数は少なかったですが、回答した方の約44%の方が61歳以上であり、高齢者にスマートフォンの操作ができないとは言えないと考えています。インターネットが利用できない方には、電話で聞き取りを実施したケースもありました。今後、アンケートを実施するときは、より多くの方に答えていただけるよう工夫したいと考えています。</p>
15	<p>(意見) 地域クラブの運営について、保護者が負担する費用の面など、しっかりと検討してほしい。</p>	

(2) 岩成台小学校

No.	質 問	回 答
1	高座台は高蔵寺中学校に近いことから、岩成台中学校区と高蔵寺中学校区との統合は検討に入っていないのか。	今回の取組は坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区を対象にしています。まずは、ニュータウンの4中学校区の中で、学校が適正な規模となるように検討していきます。
2	藤山台小の統合の際、統合して良かった点、悪かった点について何か意見があったか。	藤山台小は3校が統合し、平成28年に開校しました。良かった点としては、「新しく充実した施設で過ごすことができている。」、「統合したことによって、児童数が増えクラス替えもできるようになったので、多くの友達と関わることができるようになった。」、「運動会を始めとした学校の行事が活発になった。」が挙げられます。 一方で、課題としては、「通学区域が広がり、通学時間がかかるようになったこと」が挙げられます。統合の際に一部の地域の方から、新しい学校への通学の負担が大きいという理由から通学区域を変更した例もあります。
3	小中学校の適正規模についてだけでなく、まちづくりの視点で若者が選んでくれる街にしてほしい。学校を変えるだけではいけない。	市では、ニュータウン地区の活性化を目的に様々な施策に取り組んでいます。また、UR都市機構も若い人を呼び込む施策を進めており、市と協力して取組を進めているところです。UR都市機構は、高森台地区で団地を高森台テラスとして整備するなど、若い世代を呼び込む施策を進めています。
4	将来的にこの地域に家を建てたいと考えている方たちにとっては重要な問題である。今後のスケジュールなど、統合に関する情報は早めに知りたい。マイホームを建てる人は情報を後で知ると不安になる。分かりやすいホームページづくりを心掛けてほしい。	今後、子どもの人数が減っていくことを考えると、できるだけ早くこの課題を解決したいと考えています。 統合するとなったとして、新しい学校をつくる場合、既存の学校をリニューアルする場合、既存の学校を使う場合など、それぞれの手法で差はありますが、工事が必要となれば5年程度の期間がかかります。 情報提供については、今後も市ホームページに掲載していきます。今どんな検討をしているかなど、随時情報発信をしていきたいと考えています。
5	アンケートの推計値について、地域の転出、転入の傾向も踏まえて計算しているのか。	中学校の令和19年度、小学校の令和13年度までは、現在の人口をベースに転出・転入の社会的増減要因を加味して推計しています。宅地造成などの要因についても確認できている範囲で加味しています。
6	統合すると子どもの家はどうか。学校の規模が多くなると、定員はどうか。	子どもの家は、放課後児童の安全な居場所として重要であり、統合後の学校で子どもの家が運営されることが望ましいと考えています。今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し検討していきたいと考えています。

No.	質問	回答
7	年中の子がいる。クラスは複数あった方が良いと思っているが、スケジュールが気になる。ホームページでの情報提供はありがたいが、保育園のアプリなどでも配信をお願いしたい。	保護者への連絡アプリなどが利用できる保育園や幼稚園には、園にご協力いただき、アプリなどを通じた情報提供をしていきます。アプリなどのシステムが利用できない園は、チラシを園の掲示板に貼っていただくなどにより、保護者の皆様に情報が届くように努めていきます。
8	小学校の統合について、高座小学校に通った方が近い人もいると思う。高座小への通学を希望すれば叶うのか。	仮に統合する場合、基本的には現在の小学校区で考えることとなります。ただし、個人の希望だけではなく、地域全体のまとまった意見として希望されるような場合は、通学区域の変更も検討していきます。
9	高蔵寺ニュータウンは、まちの価値が下がっているのではないかと感じる。家を買うとなるとクラス替えがない学校の地域は選ばれない。春日井市から出ていく人もいるので、今回の取組をまちづくりの考え方を見直すきっかけにしてほしい。 また、スクールバスを走らせて魅力ある小中一貫校をつかってほしい。みんなが行きたくなる学校をつかってほしい。	皆様とまちの活性化につながるような魅力ある学校づくりを検討していきたいと考えています。
10	統合するとなれば数年後の話だと思うが、現在の学校施設の修繕についてはどう考えているか。	学校生活をしていく上で不便があるところは随時、修繕していきます。施設の大規模改修については、統合の方向性を見極めてからになると考えています。
11	藤山台を統合した理由を聞きたい。その際に、通学先を変更した人がいると聞いたが、本来の学校規模の適正化の目的から外れているのではないか。スクールバスを使って藤山台小学校に通う考えはなかったのか。	当時の藤山台小学校は、児童数が少なく今後も減少傾向を示していたことや、学校施設も古かったことなどから、学校の統合を実施しました。 通学先の変更については、地域全体で通学区域の変更の要望があり、通学区域審議会にて、妥当性が判断され認められました。 また、当時はスクールバスの議論はほとんどなく、あくまで徒歩で通うことを前提とした議論をしていました。
12	小中学校は防災拠点としての役割がある。跡地の建物などは防災拠点として使う必要があると思う。	現状、跡地の利活用について、決定していることはありません。学校が防災拠点や投票所として使用され、地域の方の拠点施設となっていることは承知しています。 しかし、学校規模の適正化等の取組については、子どもたちの教育環境の向上を最優先に考えたいと思っていますので、跡地の問題は一旦切り離し、市全体で別に検討したいと考えています。
13	学校の適正規模等にすぐに取り組む必要があるのか。岩成台地区と他の地区と比べてどの順番で実施していくのか。	中学校区内の全ての小学校が過小規模校、又は小規模になる中学校区を優先的に取り組むこととしています。順番については決まっておらず、皆様と協議をしていく中で、地域の意見がまとまった中学校区から、可能な限り早く進めていきたいと考えています。

No.	質問	回答
14	<p>学校規模の適正化等の取組を急ぐ必要はないと考える。別の学校での説明会で、部活動の活性化のために統合を進めたいという意見も聞いたが、地域クラブの活動もあるので、部活動のために統合を進めることは論点がずれると思う。</p> <p>また、跡地の利活用の方向性も決まっていないことに不安を感じる。</p> <p>さらに、統合のタイミングで学校にいる子は、環境が大きく変わること受験に不利になるかもしれない。今後のスケジュールなどのアナウンスは早くしてほしいし、子どもの将来に向けての準備期間、心の準備期間が必要だと思う。</p>	<p>仮に統合するとなった場合、子どもの環境が大きく変わるので、子どもたちへの精神的なケアは必要になると考えます。統合する学校同士の事前の交流も考える必要があります。スケジュールについては、最終的にどの時期に統合するということからさかのぼって考え、適切に情報提供をしていきます。</p> <p>また、跡地については、子ども、保護者や地域の皆様の意見を聞きながら、検討していきたいと考えています。</p>
15	<p>アンケートは住民投票とは違うので、合意形成の根拠には使えないと考える。いろいろな方の意見は取組にどのように反映されていくのか。どのような手続きをとって、これから進めていくのか。</p>	<p>今後の進め方としては、中学校区全体で2回目の意見交換会を開催します。その後、中学校区で保護者や地域の代表の方、学校関係者などで協議会のようなものをつくり、具体的な検討を続けていくことで取組を進めていきます。</p> <p>最終的には行政が方向性を判断して決めることになると考えますが、その前に皆様との議論をしっかりと行っていきます。</p>
16	<p>より良い教育環境の充実には先生の力が必要だと思う。先生たちとも連携をとって取り組みを進めてほしい。</p>	<p>先生方との意見交換も大切だと考えています。議論をしながら、魅力ある学校づくりを検討していきたいと考えています。</p>
17	<p>(意見) ニュータウンは地盤も強く、浸水や土砂崩れもない。安心できる土地である。 私立の学校に行くより地元の学校が良いと言われるような、他の地区からも住みたいと思われるようなビジョンを考えてほしい。</p>	
18	<p>(意見) 仮に統合するとなったとしても、避難所としての機能は維持してもらわないと困る。体育館だけではなく、教室も避難所として使うなどの考えも必要だと思う。</p>	

(3) 岩成台西小学校

No.	質問	回答
1	学校規模の適正化というのは、学校統合を考えているということか。	学校規模の適正化の取組については、統合を含めて様々な手法があります。今回の意見交換会で皆様から様々な意見をいただき、今後の検討の参考にさせていただきたいと考えています。
2	バスの利用の話があったが、バスの安全性についてはどう考えているか。	バスの導入については、これから検討していくことになります。導入の検討に合わせて、安全性についても検討していきたいと考えています。
3	学校規模の適正化の取組について、統合以外にどんな手法があるのか。	統合以外には、通学区域の変更があります。しかし、ニュータウン地区全体で子どもの数が減っている中で、規模の小さな学校が隣接する場合、通学区域の変更では根本的な解決にはならないと考えます。
4	統合については、通学の距離は長くなるものの、友達が増えるなどのイメージをもっている。しかし、通学区域の変更があると、地域によっては、別の校区に行くこともあり得る。友達がなくなったりする場合も考えられるので、子どもたちの気持ちも重要視して考えてほしい。	子どもたちのつながりはもちろんのこと、保護者や地域のつながりも大事にする必要があると考えています。地図上だけでなく、地域単位で考えるなどの配慮をしっかりとしていきたいと考えています。
5	岩成台中学校でも説明会があったと聞いたが、小中一貫校について検討をしているのか。	岩成台中学校についても将来、過小規模になると推定されますので、隣接する中学校区を含めた検討も必要になると考えています。小中一貫校については、他市でも事例がありますので、皆様と協議する中で最適なものを選択していきたいと考えています。
6	令和 22 年度まで人口推計があるが、先のことのように感じる。令和 22 年度まで推計した理由を聞きたい。	学校の適正規模等については、検討から開校まで長い時間を要する取組だと思っています。人口推計についても可能な限り先の状況を見据えて検討する必要があると考えて、令和 22 年度まで推計値を出しました。藤山台小学校では統合後、想定以上に子どもの数が減り、規模が小さくなってしまったこともあるので、先を見据えて検討する必要があると考えています。
7	個人的にこの令和 22 年度の推計値はショック療法のように感じてしまう。 各地域で説明会を開催して、多くの方の意見を直接聞くことは良いことだと思うし、今後、学校に関係がある若い世代の方の意見もよく聞く必要がある。 1 学級 35 人は多いと感じているので、春日井市独自の基準で 1 学級あたりの人数を変えることはできないか。	アンケートでは、公私立保育園や私立幼稚園に協力していただき、未就学児の保護者の方からも回答をいただいています。また、意見交換会の日程についても、同様に園に協力いただき、広く周知しました。 1 学級あたりの人数については、国・県の 1 学級の編制基準があるため、春日井市だけで 1 学級当たりの児童数を変更しても、県から配置される教員の数が足りなくなります。教員の不足や、市の予算上の課題もあり、市独自の設定は難しいと考えます。

No.	質 問	回 答
8	<p>他市では、働いている親が安心して子どもを預けられる環境をしっかりと整備することで、子どもの数が増えている例もある。</p> <p>春日井市も働く子育て世代のため、様々な施策を実施することを考えているか。</p>	<p>市教育委員会としては、子どもの教育環境の向上を一番の目的と考え、今回の取組をご説明させていただいています。</p> <p>春日井市は子育てしやすいまちとして、18歳までの子ども医療費の無償化、放課後児童クラブやなかよし教室の実施、子どもの屋外・屋内の遊び場の整備などを行ってきました。その他にも、学校給食費の食材費高騰分を市で負担し、保護者負担分を据え置くなどの支援を行っています。また、ニュータウン地区の活性化の施策を実施する部署もあります。市としては、これからも多角的に議論していきたいと考えています。</p>
9	<p>教育委員会ではどれくらいスケジュールで進めていこうと考えているのか。</p>	<p>統合についての具体的なスケジュールは決まっていません。いつ皆様との合意形成がなされるかによって、スケジュールは変わってきます。仮に統合という結論になった場合、既存の校舎を使う場合、既存校舎の大規模なりニューアル工事を実施する場合、新築する場合によって変わります。</p>
10	<p>体育館のエアコンが整備されると聞いている。統合された場合にエアコンの整備が無駄になってしまうのではないかと思う。統合後の跡地のビジョンはあるのか。</p>	<p>現状決まっていることはありません。</p> <p>市教育委員会はより良い教育環境の実現を第一の目的に考えていますので、跡地の問題も大変重要だとは思いますが、一旦切り離して検討したいと考えています。</p> <p>体育館の空調整備については、無駄とは考えていません。現在の子どもたちの教育環境の向上という視点で喫緊の課題と判断して整備するものです。</p>
11	<p>令和 22 年以降の人口推計についてはどう考えているのか。</p>	<p>令和 22 年度以降の推計値は不明ですが、全国的な人口減少の中、子どもの数も減っていくため、このような減少傾向は続くのではないかと考えています。</p>
12	<p>子どもの通学路の安全性について、市の施策として、通学路の見守りのボランティアを増やすことや防犯カメラを多く設置してほしい。</p>	<p>子どもの通学路の安全性については全国的な問題になっていると理解しています。市教育委員会としては、今回の学校の適正規模等の取組を進めるとともに、担当部署と連携していきたいと考えています。</p>
13	<p>統合しても 1 クラス 35 人に満たないクラスがある場合どうするのか。</p>	<p>1 クラスの人数は県の基準で決まっており、市独自の基準を設けることは考えていません。岩成台中学校区だけでは適正規模が維持できない場合は、隣接する中学校区と合わせた検討をする必要があると考えています。</p>
14	<p>先生の数 は 県 の 予 算 で 決 ま っ て いて、採 用 人 数 が 限 ら れ て いる。県 の 基 準 が あ る の で、春 日 井 市 独 自 の 動 き が と れ な い の か。</p>	<p>先ほどもご説明したとおり、クラス数に応じて配置される教員の人数が決まっています。ある程度の規模の学校であれば、学級数以上の先生が配置されることもありますが、市独自の人数配置をすることは予算の関係からも困難であり、県の基準で配置しています。</p>

第2回意見交換会 質疑応答一覧

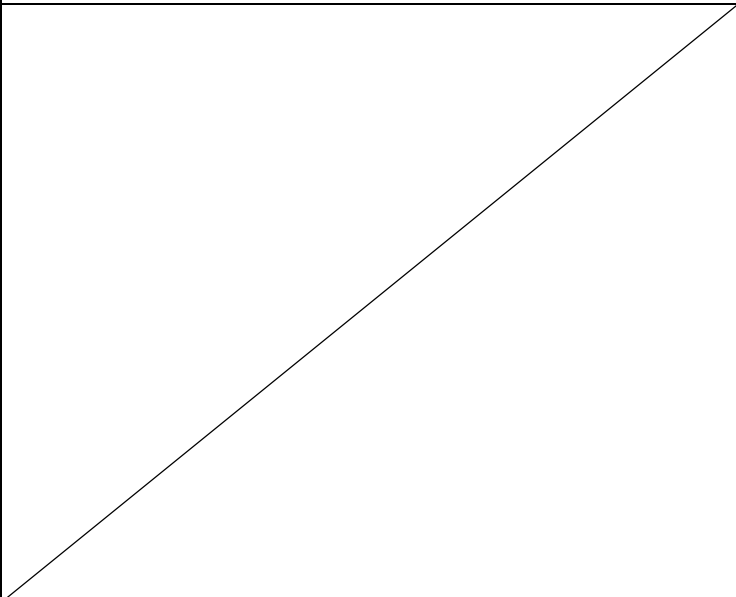
1 藤山台中学校区

No.	質問	回答
1	藤山台中学校区と岩成台中学校区を統合するとのことだが、今後の進め方を教えてほしい。	岩成台中学校区でも同様に、藤山台中学校区との統合を検討するという話をさせていただきました。次は、藤山台中学校区と岩成台中学校区で合同の意見交換会を開催させていただこうと考えています。その場で、お互いの地区の考え方について知るきっかけづくりをしたいと考えています。その後、統合するという方向性が固まったら、地域や保護者の代表の方などにご参加いただく懇談会を開催し、具体的な検討を進めていく予定です。いずれは、方針案を出す必要があると思いますので、その方針を市が作成し皆様に検討していただくのか、懇談会での意見を踏まえつつ方針案を作成し皆様にお示しするかは、状況によって変わってくると思います。その後、方針案に基づいて、学校を建てる場所や具体的なスケジュールなどを決定していきたいと考えています。
2	例えば、最終的にニュータウン地区で学校を一つに統合するというようなニュータウン地区全体の構想はあるのか。	ニュータウン全体の構想について、現段階で具体的な考えはありません。現在の子どもの数の実数から確認できる児童生徒数推計は、小学校で令和13年度まで、中学校で令和19年度までとなっており、それ以降の児童生徒数の変遷を明確にすることは難しいです。また、国が1学級あたりの児童生徒数を40人から35人としていく中で、今後さらに少人数学級になっていったときに、ある程度の規模の学校に統合したにも関わらず、教室の数が足りず増築しなければならないといった状況は望ましくないと考えています。こうしたことも考慮しながら、多角的に考えていきます。
3	小中一貫校について、メリットなどを詳しく教えてほしい。	小中一貫教育は大きく分けて、2つの形があります。1つは、1つの学校の中で小学校と中学校の子どもが9年間過ごし、校長先生は1人である義務教育学校という形と、もう1つは、小学校と中学校は別で、校長先生もそれぞれいますが、連携して9年間の一貫教育を行っていくという形です。 メリットについて、「中1ギャップ」と言われる小学校から中学校に上がる際の子どもへの心理的負担が軽減されることや、中学校の専門的な教科の先生が小学校にも授業をすることで、より専門的な指導ができることなどが挙げられます。
4	小中一貫校は魅力的であると思うので、ニュータウンにも建ててほしい。	統合の検討を進めるにあたって、魅力ある学校づくりは大きなテーマの一つと考えています。小中一貫校はその手段の1つであると考えていますので、今後、皆様からの意見も参考に検討を進めていきたいと考えています。

No.	質 問	回 答
5	今後、統合の検討を進めるにあたり、段階を踏んだ説明が必要になってくると思う。その際に、今回の参加人数では少ないので、地域や保護者の代表の方に必ず参加してもらうなどの参加人数を増やす工夫が必要であると思う。今後、このようなことは検討しているのか。	<p>第1回意見交換会は、平日の夜に開催させていただきましたが、保護者の方からこの時間帯では参加することが難しいという意見もいただいたので、今回は土日の日中の時間帯に設定させていただきました。しかし、今回もなかなか人が集まらない現状を見ると、そもそも関心を持つ方が少ないのか、どのような話があるのかがわからないといったことにも原因があると思います。保護者や地域の方に、より関心を持っていただくために、今回の意見交換会での内容をまとめ、「かわら版」のようなお知らせを作成し、学校情報配信アプリのHome&School や地域の回覧などで周知を図りたいと考えています。</p> <p>また、今後の予定として、藤山台中学校区と岩成台中学校区で合同の意見交換会を開催した後に、保護者や地域の方の代表者などで組織する懇談会を開催していくことを考えています。</p>
6	未就学児の保護者の方が意見交換会に多く参加できるように、託児可能にしてほしい。	貴重なご意見ありがとうございます。今後、検討させていただきます。
7	瀬戸市の「にじの丘学園」は、新しい土地に学校を建設したのか。それとも、学校を改装して建設したのか。	「にじの丘学園」は約8万㎡あります。統合の元となった中学校と、隣接する多目的公園を改修して学校を建設しています。そのため、グラウンドが2つあり、駐車場も整備されています。
8	「にじの丘学園」のような大きな学校をニュータウンで建設すると考えた際に、土地の広さなどから可能なのか。	<p>基本的には、新たな土地に学校を設置するという考え方は持っていないので、広い土地を確保することは非現実的であると考えています。</p> <p>子どもたちの教育環境の向上のため、体育館やグラウンドの大きさは確保しなければなりません。茨城県つくば市の義務教育学校では、約4万㎡で学校が建設されています。また、名古屋市守山区では3小学校・1中学校を対象に統合し、約2万㎡弱の土地に小中一貫校の検討が進められており、土地の広さによって工夫する必要があると思います。</p> <p>藤山台中学校区と岩成台中学校区で考えたときには、岩成台中学校と岩成台西小学校が隣接しており土地の確保がしやすいとは思いますが、一つの可能性の話であって決定事項ではありません。藤山台小学校も施設が比較的新しく、子どもたちが良い設備で生活していることも承知していますので、様々な方法を考えながら検討を進めていきたいと考えています。</p>
9	「にじの丘学園」の学校区の広さをニュータウン地区に当てはめるとどれくらいの広さになるのか。	「にじの丘学園」は通学距離の半径を4kmと定めており、春日井市では半径2kmを基準としていることから、中学校区2つのイメージであると思います。

No.	質 問	回 答
10	仮に藤山台中学校区と岩成台中学校区が統合する場合、事前に互いの学校の交流を深めるためのイベントを企画してほしい。	過去に藤山台小学校が3校統合した際も、子どもたちがスムーズに馴染めるように事前に交流する機会を設けています。1回目の意見交換会でも同様のご意見をいただいております。子どもたちに負担がかからないようにするために、積極的にそのような機会を設けてきたいと考えています。
11	藤山台中学校区と岩成台中学校区が統合すると決まった時点から、部活動を一緒にした方が良いと思う。	部活について、現在、平日は学校部活動として活動しており、休日は地域クラブとして展開しています。休日の地域クラブは、自分の通っている学校のクラブに参加することになっていますが、今後は所属するクラブを自由に選択することができる形になっていくと思います。一方、平日の部活動については、学校の中の活動であるので、学校ごとで進めていくと思いますが、地域クラブへの移行状況によって変わってくると思います。 仮に統合した際に、学校間の交流として部活動をもに行うことは、移動の安全性の観点からも難しいと思います。ただ、イベント的に実施することは可能であると思います。
12	意見交換会であると少し硬い雰囲気があると思うので、ワークショップのような形で開催すると、多くの意見を聞くことができると思う。	ご意見のとおり、大人数の中で自分の意見を発言することは勇気がいると思います。今後検討を進めていく中では、保護者や地域の方の小さな集まりにも積極的に参加させていただき、皆様から多くのご意見をお聞きしたいと考えています。
13	登下校のバスについて、高齢者も利用可能なバスを導入する予定はあるのか。	地域の皆様も利用できるようなバスを導入することも1つの手段であると思います。仮にそのようなバスを導入するとなった場合には、市の担当部署と連携するだけでなく、現在運行している事業者との調整も必要となるため、段階的に進めていく必要があると思います。

No.	質 問	回 答
14	<p>「にじの丘学園」の話が多く出てきたが、瀬戸市では、統廃合せずに、少人数の学校として残すところがあるという話を聞いた。春日井市でも、通学距離が遠くなり統廃合を進めることが難しいところがあると思う。各学校で特色を作っていけば、ニュータウンの人口が増えるきっかけになると思う。</p> <p>また、「にじの丘学園」の通学範囲の距離を聞いて非常に遠いと感じた。小学校低学年の子どもは、猛暑の中で通うことができないと多くの保護者は考えていると思う。</p> <p>魅力ある学校づくりを行うことがニュータウンの人口増加につながるということだが、ニュータウンの人口を増やすことが先であると思う。そうすれば、学校を統合する必要もない。ニュータウン地区のまちづくりのための政策はどうなったのか。</p>	<p>ニュータウンの活性化の施策については、ニュータウン創生課が中心となり「リ・ニュータウン計画」に基づいて、人口増加のための取組を続けています。しかし、全国的に少子化が進む中、ニュータウン地区だけが子どもの数が増えるということは現実的に難しいと思います。子どもの教育環境の向上を考え、ニュータウン活性化のための取組と学校の適正規模等の取組は、並行して進めていきたいと考えています。</p>
15	<p>魅力ある学校をつくることで、その学校の周辺を中心に人口が増えていくと思う。そうすると、他のニュータウンの学校が廃れてしまうのではないか。</p>	<p>そのような可能性は否定できませんが、魅力ある学校づくりをすることで、近隣他市からも人に来てもらいたいという思いはあります。</p>
16	<p>どのような意見がまとまったら統合すると決定するのか。また保護者の方は、登下校に関しての不安が大きい。具体的な統合案があると、保護者も考えやすくなると思う。</p>	<p>統合を決定する基準について明確なものはありません。市としては、子どもの教育環境の向上のために、なるべく早く取り掛かりたいと考えています。今後、具体的な議論を進めていき、最終的には市が判断します。</p> <p>今後は、岩成台中学校区との合同の意見交換会を開催し、そこでのご意見も参考にしながら、市の考え方をまとめた基本方針を作成していきたいと考えています。その後、学校の場所やバスの運行など、より具体的な統合案を皆様と考えていきたいと思っています。</p>
17	<p>地域クラブについて、通っている学校に関係なく好きなどころに所属できるようになると、人気あるクラブに人数が偏ってしまうと思う。</p>	<p>地域クラブでも少子化の影響を受けており、参加する子どもの数が減っています。また、指導者の数も減っているため、近隣の学校と合同化を進めています。そのため、土日は好きな所属クラブを選ぶことができるようにすることで、活動の場を確保したいと思っています。一方で、平日は保護者の送迎が難しいため、学校の中に残していきたいと考えています。地域クラブについての情報も早い段階で市民の皆様にお伝えしていきたいと思っています。</p>

No.	質 問	回 答
18	<p>魅力ある学校づくりのための議論に、不登校の子どもを持つ保護者が置き去りにされていること気になる。不登校の子どもたちにとっても魅力があるような学校をつくってほしい。</p>	<p>不登校の子どもは、春日井市でも以前と比べて増えています。魅力的な学校づくりの一環として、特色あるカリキュラムの導入やコミュニティスクールの推進、小中一貫教育の導入の他に、学びの多様化学校の設置についても全国的にも進められています。春日井市では不登校対策として、中学校に登校支援室の設置やスクールソーシャルワーカーやカウンセラーによる家庭訪問などの取組をしています。</p> <p>今回の統合の検討につきまして、増え続けている不登校の子どもたちを決して忘れることなく、検討を進めていきたいと思ひます。</p>
19	<p>不登校の子どもたちが行きやすくなるような学校を全国の先進的な例を参考にしながら進めてほしい。また、学びの多様化学校をニュータウン地区に設置することができたら、相乗効果として良くなっていくと思う。春日井市の不登校の子ども数は増えているが、対策はとても先進的であると思う。</p>	<p>不登校の子どもに対して、学校に通わせることだけが正解ではなく、フリースクールなどに通うことも1つの選択肢であると思ひます。</p> <p>成長段階にある子どもは、友達に出会うことが非常に大事であり、友達に恵まれると学校生活は楽しいものになり、友達がいないと学校に行かなくなるきっかけになります。そのため、1人でも多くの友達に出会うことは必要だと思ひますので、一定の学校規模を確保することは、今後、不登校の子どもたちにとって、きっかけとなる取組であると思ひます。</p>
20	<p>(意見)</p> <p>私は、不登校支援を行っている。不登校の子どもたちが学校にいけない理由について、「不登校の理由がわからない」ということが、多くの子どもたちと接する中でわかった。不登校の原因がわからないため、不登校の子どもたちの現状を受け入れてあげることが何よりも大事である。その経験をもとに、子どもたちは元気になっていくと思う。また、学校が様々な問題を抱える子どもたちを受け入れられる機能を持つものに発展することができれば、それに越したことはない。</p>	

2 岩成台中学校区

No.	質 問	回 答
1	<p>(意見) 瀬戸市の「にじの丘学園」が魅力的な学校であるため、児童生徒数が増えているとのことだが、学校区で区画整理が進んだ影響で分譲住宅が多くなり、人口が増えている。そのため、必ずしも学校の魅力だけで人数が増えているわけではないと思う。</p>	
2	<p>現在、防犯防災の訓練やゲートボール大会などのイベント、地域の活動を小学校で行っている。仮に統合となると、このような地域と学校のつながりが大きく制限されるように感じる。統合を進める際は、地域との対話を丁寧に行ってほしい。</p>	<p>私たちも統合に向けた取組を進めるにあたり、地域のつながりを重視しています。仮に統合した際は、地域の新たなつながりが生まれるとも思います。今後も地域との関係性について、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。</p>
3	<p>猛暑の中、通学時間が長くなることは非常に心配である。またスクールバスなども検討することだが、スクールバスの会社はとてまもなく、運転手もなかなかいない。退職された高齢者を運転手に採用することも多くあるので危険だと感じる。スクールバスを出せば解決するような簡単な問題ではない。</p>	<p>スクールバスについて、運転手が不足している状況は多く聞きます。他市では、瀬戸市は既存のバス路線を活用した通学方法、小牧市はスクールバスの運行を考え、エリアの設定を行っているところと聞いています。スクールバスについては、今後も皆様に情報提供をしながら、共に検討していきたいと思えます。</p>
4	<p>きめ細かな教育がクラス替えよりも大事なことであると思う。国や県で基準が定められているため、少人数学級を維持することは難しいとは思いますが、市独自の予算をつけるなど、少人数で子どもたちを見てもらえる環境づくりをしてほしい。</p>	<p>少人数学級について、ご家庭の考えやお子様の性格はそれぞれで異なるので、少人数学級が合うか合わないかは変わってきますが、市としては、クラス替えができる規模が適正であると考えています。また、子どもたちが義務教育を受ける中で多くの人と関わることは大事であると考えます。実際に学力の数値として表れるわけではありませんが、子どもたちは毎日学校に通って様々な体験をして成長していきます。トラブルやけんかなどもあると思いますが、それを経験していくことが成長のために必要であると考えます。</p>

No.	質 問	回 答
5	<p>少ない人数を見る方が教員にとっては良いのか。また仮に統合するとした場合に、複数の学校を1校に統合することはコスト削減になると思う。その削減分は子どもたちに対して間接的に還元されるのか。</p>	<p>教員一人あたりが見る子どもの人数が少ないほど、子ども一人ひとりに目が行き届きやすくなり、教員の精神的な負担も軽くなることはあると思います。ただ一方で、同じ学年に別のクラスの教員がいない場合、教員の資質向上につながりにくいと考えます。複数のクラスがあるということは、教員が切磋琢磨する環境が生まれ、様々な視点から教育に向き合うことができます。また、子どもたちにとって、教員が常に助けてあげられる環境が果たして良いことであるのかと考えます。子どもたちは、自己選択をして決断することで成長につながると思います。</p> <p>学校のコストについて、藤山台小学校を新しく建設した際の金額は約40億円でした。今、建設するとなると物価高の影響で当時よりも高くなると予想されます。一方で、春日井市では古くなった学校に対してリニューアル工事を進めており、学校の規模にもよりますが、1校あたり約20億円から25億円ほど必要となります。</p> <p>既存の学校数をそのまま残していくのと、統合して仮に新しい施設を建てる場合との比較でもコストの差が生じます。また、光熱水費や修繕といった施設の維持管理費は1校あたり年間で約5,000万円かかっています。仮に統合となり、学校の数が減れば、これらのコストも削減することができます。予算は市全体で考えるため、削減できたコストを全て子どもたちに還元できるとは限りませんが、子どもたちに、より良い教育のための環境を整えることはできるのではないかと考えています。</p>
6	<p>藤山台小学校は学校が新しいので、スムーズにいけば3年くらいで統合できるのではと思うが、他の校区は工事が必要になれば5年程度かかるとして検討を進めていると思う。5つの中学校区が足並みをそろえて統合に向けて動き出すのか。それとも各中学校区で意見がまとまった地区から進めていくのか。</p>	<p>5中学校区で意見がまとまったら統合を進めるわけではなく、早く合意形成ができた地区から進めていきたいと考えています。小規模校、過小規模校があるという現状は、市として良い状態とは考えていないので、可能な限り早く解決できるように取組を進めていきます。今回、岩成台中学校区と藤山台中学校区で統合の検討を進めていきたいとお話させていただきましたが、今の藤山台小学校を使うことは前提としていません。新しい学校を建設することも含め、どこに統合するかなど具体的なことは皆様とともに検討を進めていきたいと考えています。</p>
7	<p>少子化が急激に進む中、統合するという方向性は必要不可欠であると思う。また現在、小学校の体育館は避難場所に指定されており、地区社会福祉協議会で避難所運営マニュアルを独自に作成した。提案だが、避難のことも考えると、統合するとした場合には高座台5丁目を岩成台小学校区から切り離して、高座小学校に学区変更してほしい。</p> <p>また、通学について、昔は30分ほど通学時間がかかった。統合するとすれば、通学時間が長くなることは覚悟しなければならないことであると思う。その際に自転車通学も一つの手段として考えてほしい。</p>	<p>避難所のことも考え、現在の高座台5丁目を高座小学校区に学区変更することについては、今後、検討を進めていく中で、新しい学校の場所によっては、別の学校の方が近くなる場合もあります。個人の意見をそれぞれ聞くことは難しいですが、その地区の総意として、学区を変更したいという声が挙げれば検討していきたいと考えています。</p> <p>通学につきましては、アンケートの集計結果からも保護者の方は通学の安全性や時間を心配する声が多くありました。また第1回意見交換会で出た意見として、バスを出すことは良いことであると思うが、子どもたちが歩かなくなることは、体力面を考えたときに心配であるという声もいただいています。今後、バスの運用や自転車通学についても具体的に皆様と検討していきたいと考えています。</p>

No.	質 問	回 答
8	令和 22 年度における推計値について、人口ビジョンの春日井市全体の子ども的人数の変化から見ると、今回の資料の数値は減少幅が大き過ぎるように思うが、どのように計算しているのか。	令和 22 年度の推計については、人口ビジョンの児童生徒数の推計から算出しています。この人口ビジョンは過去の国勢調査の人口推移から生存率や出生率、転出転入率などを踏まえた上で地区ごとに推計しています。そのためニュータウン地区については、市全体と比べて減少幅が大きくなっています。
9	高蔵寺ニュータウンの歴史や特色を踏まえて考えてほしい。ニュータウン創生課と強固な連携を取らないと、学校が統合するから違う地区に住むという選択をする方が多くなると思う。反対に、少人数学級の学校を維持すれば、地域の特性として根付き、様々な場所から人が集まってくるかもしれない。	今後、若い世代が転入してきて子育て世帯が増えるということは一番望ましいことであると思います。それがリ・ニュータウン計画の一つの施策であると思いますが、今の子どもたちの教育環境をそのままにしておけないので、両立させながら進めていきたいと思っています。また魅力ある学校をつくるのがまちづくりにつながるような施策になればよいと考えています。
10	藤山台小学校は比較的校舎が新しく、岩成台小学校も何年か前に耐震補強している。場当たりの形ではなく、10 年～15 年スパンの中長期の計画をもって取り組んでもらいたい。	統合については、ご意見いただいたとおり、長期的な視点をもって考えていかなければいけないと考えています。今回は令和 22 年度という 15 年先の子どもの数を推計しています。今後検討を進める中で、児童生徒数の推計は変わっていきますので、皆様に情報提供しつつ、先を見据えた統合を考えていきます。
11	名鉄バスについて、昼は利用者も少ないので、バスや運転手が余っている実情があると思う。これらのことから、通常の基幹ルートそのまま使うのか、小学校特別ルートを作るのかを踏まえて、一緒に検討してもらおうと、子どもとバス会社両方にメリットがあるのではないか。	バスの確保は難しい状況もあると考えているので、バス会社と協議しながら、既存のバス路線も活用できたらよいと思っています。
12	授業について、児童数の規模については、国と県で決められているので、そこを変えるのは大変と思う。統合することによって、学校の数が減り、先生に余裕ができるのであれば、30 人以上の学級については、チーム・ティーチングにするといったルールを作るなどの検討を進めてほしい。	授業については、現在も春日井市独自の予算で、チーム・ティーチングに入れる先生を配置しているだけでなく、授業と担任ができる先生についても加配を行っています。人数が多い学校については、市独自の加配の人数を増やしていくことは可能なので検討していきたいと思っています。
13	仮に統合が決まった場合、校舎の場所を決める基準があるのか。在校生が多い方が優先されるなどの基準があれば聞きたい。	基準はありません。今後、具体的な検討を進めていく中で、市として複数の案を提示しながら皆様と議論していきます。
14	今回の意見交換会では、藤山台中学校区を対象に検討すると明言された。前回の岩成台小学校と岩成台西小学校の意見交換会に参加したが、その時にはそういった意見はなかったと思う。藤山台小学校、中学校での意見交換会ではそういった意見があったのか。	1 回目の藤山台小学校、中学校の時にも、特にそのような具体的な話はありませんでしたが、藤山台中学校区は中学校と小学校が 1 校しかありません。そのため、藤山台中学校区だけでは適正規模の課題を解決しようがないという話はした上で、中学校区を越えた検討が必要であるとお伝えしました。

No.	質 問	回 答
15	小中一貫校は検討しているか。	これから検討していくことになると思います。小中一貫校は、魅力ある学校づくりの一つの手段であり、議論を進めていく中で、市からメリットやデメリットを示し、提案することがあると思います。
16	<p>藤山台小学校と岩成台小学校、岩成台西小学校が統合するとなると、新しい校舎である藤山台小学校に統合されると思う。そうなる、岩成台地区に住んでいると駅は近いけど、小学校は遠いところになることを懸念している。</p> <p>また、令和 22 年度という、まだ誰も分からない数字を見据えて統合してしまうのはどうなのか。新しい学校ができることによる、子どもたちや地域の未来像などの魅力ある話し合いができると、多くの人々が納得すると思う。</p>	<p>今後も懇談会で具体的な検討を進めていくことになると思いますが、市から複数の案を提示させていただくとともに、皆様からも魅力ある学校づくりのための意見を伺いながら検討を進めていきたいと考えています。</p>
17	<p>高蔵寺ニュータウンでは急激に空き家が増えている。配布資料の児童生徒数推計を見ると高蔵寺ニュータウンに住んでもらえない。そのため単なる統廃合だけでなく、特色ある学校づくりが重要である。なるべく早く、統合のビジョンだけでなく統合による良い影響についても示してほしい。</p> <p>スクールバスについて、公共交通機関を使うことに抵抗ある人はいないと思う。公共交通機関を使って、有効な通学方法を検討することが大切であると考えます。</p>	<p>市としても、スピード感をもって取組を進めたいと考えていますが、皆様とは今後もしっかり話し合いを続けていきたいと考えています。魅力ある学校づくりがまちづくりにつながってほしいという思いは皆様と一緒にあると思うので、今後もその視点ももって検討を続けていけたらと考えています。</p>
18	<p>学童について、3年生までしか入れない状況にあるところもある。共働き世帯が増えている中、小学校の中に学童があり、安心して6年生まで利用できるように合わせて検討してほしい。</p>	<p>ニュータウンの地区では、学校の敷地内に子どもの家を設置している状況です。</p> <p>利用できる人数については、年齢制限を設けているわけではありませんが、定員が国の基準による施設の面積と職員の配置によって決まることもあり、低学年の子を優先的に入れるようにする結果、高学年が入りづらい状況になっているところもあります。学童は放課後の子どもの居場所として重要であると認識しており、仮に統合するとなると児童数が増えることから、子どもの家を担当している部署としっかり連携して考えていきます。</p>

No.	質 問	回 答
19	<p>統合するにあたって、子どもたち自身がストレスを感じる子もいると思う。藤山台小学校が統合された際、子どもたちに何か影響があったのか。また、それに対しケアをしたのか。</p>	<p>藤山台小学校の3校を統合する際には、子どもたちに心配や負担がかからないように、事前に統合する学校間で子どもたちの交流を深める機会を設け、スムーズに子どもたちも馴染めるように進めてきました。</p> <p>藤山台小学校を統合したときの当時の校長先生に話を聞いたところ、統合については、子どもたちは思っていた以上に早く適応してくれたと話しており、どちらかというと、保護者の方が関係性を構築していくことに時間がかかったと伺いました。</p>
20	<p>市の財政状況から考えて、今の段階で、既存の施設を使う可能性が高いのか、瀬戸市の学校のような素晴らしい魅力あるような施設をつくっていいのか教えてほしい。瀬戸の学校のページをみたが、施設は大変良く、藤山台小学校の時の40億円よりもっとかかっているのではないかと思った。また小中一貫校のメリットやデメリットがあれば教えてほしい。</p>	<p>市として持続的に皆様に快適に過ごしていただくためには、公共施設の規模をある程度、人口に見合った規模に小さくしていかないといけないという考えがあります。しかし、学校を全てなくす考えはなく、子どもたちの数に見合った一定規模にしていくことが一番良いと考えています。そのため全ての学校をリニューアル工事するよりは、学校の数を減らした上で新しい学校をつくる方が財政的には負担は軽いかもしれないという考えがあります。</p> <p>小中一貫校について、小学校1年生から中学3年生が同じ学校に通うことになり、異年齢の子どもが同じ環境で9年間過ごすことはメリットだと思います。また英語や理数教育において、中学校の教員がいますので人材交流して授業を行うこともできると思います。</p>
21	<p>今後のスケジュールについて教えてほしい。</p>	<p>今後のスケジュールについては、この後に開催する藤山台中学校区での第2回意見交換会を踏まえて、次は岩成台中学校区と藤山台中学校区と合同の意見交換会を開催したいと考えています。そこで考えがある程度まとまれば、この地区における統合に向けての基本方針を作成していきたいと考えています。</p>

V 藤山台中学校区、岩成台中学校区における市の考え方について

藤山台中学校区と岩成台中学校区の「児童生徒数推計」、「アンケート結果」、「地域の特性」及び「意見交換会」での意見を踏まえ、両中学校区における各学校の適正規模及び適正配置に向けた本市の考え方を示します。

1 児童生徒数推計

- (1) 藤山台中学校区は、令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、小中学校の 9 年間でクラス替えのない環境になると推定されます。
- (2) 岩成台中学校区は、令和 22 年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」と推定されます。また、小学校については、岩成台小学校と岩成台西小学校を統合した場合でも、「小規模」とであると推定されます。
- (3) 藤山台中学校区、岩成台中学校区ともに、それぞれの中学校区内では適正規模の課題の解決ができません。

2 アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配しています。

3 地域の特性

- (1) ニュータウン地区内で、藤山台中学校区と岩成台中学校区は隣接し、藤山台中学校と岩成台中学校は、直線距離で 0.9 km の距離に位置しており、他の中学校と比較して最も近い距離にあります。
- (2) 藤山台中学校区では、平成 25 年 4 月に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合し、平成 28 年 4 月に西藤山台小学校を統合しました。現在、藤山台小学校は、中学校区内の唯一の小学校です。

4 意見交換会

- (1) 藤山台中学校区の意見交換会では、意見交換会についてや、不登校の子どもたちへの対応についての質問が多くありました。また、統合に関する市の考え方や小中一貫校について、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。
- (2) 岩成台中学校区の意見交換会では、統合に関する市の考え方についての質問が多くありました。また、通学バスや魅力ある学校づくりについて、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。

＜市の考え方＞

- 1 藤山台中学校区と岩成台中学校区の学校の統合を検討します。
 - (1) 中学校は、藤山台中学校と岩成台中学校の統合に向けて検討を進めます。
 - (2) 小学校は、藤山台小学校・岩成台小学校・岩成台西小学校の3校の統合に向けて検討を進めます。
- 2 新しい学校が魅力ある学校となるように検討を進めます。

- ・登下校については、バスの利用などの通学手段を検討します。
- ・小中一貫教育や特色あるカリキュラムの導入など、子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討します。

藤山台中学校区、岩成台中学校区の児童生徒数推計の合計

中学校の合計では、令和13年度まで「適正規模」で推移すると推定されますが、令和14年度には、小規模ですが全学年でクラス替えができる「やや小規模」になると推定されます。
 小学校の合計では、令和22年度においても「適正規模」を維持すると推定されます。

(1) 藤山台中学校、岩成台中学校の合計 ※R14から「やや小規模」になると推定

学 年	R 7 (適正)		R 13 (適正)		R 19 (やや小)		R 22 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	140	4	118	4	64	2	54	2
2 年	130	4	124	4	82	3	50	2
3 年	155	4	131	4	84	3	60	2
合 計	425	12	373	12	230	8	164	6

(2) 藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校の合計

学 年	R 7 (大)		R 13 (適正)		R 22 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	119	4	68	2	50	2
2 年	131	4	88	3	55	2
3 年	132	4	99	3	56	2
4 年	141	5	103	3	59	2
5 年	139	4	111	4	55	2
6 年	151	5	109	4	60	2
合 計	813	26	578	19	335	12

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

【参考資料】

1 高蔵寺ニュータウン地区の他中学校区の児童生徒数推計

ア 高森台中学校区

(7) 高森台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「小規模」と推定

学年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	99	3	78	3	95	3	89	3
2年	92	3	98	3	77	3	94	3
3年	94	3	91	3	97	3	76	3
合計	285	9	267	9	269	9	259	9

(4) 高森台小学校 ※R13まで「小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R 10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	34	1	32	1	32	1	36	2
2年	36	2	35	1	32	1	32	1
3年	41	2	37	2	36	2	32	1
4年	38	2	42	2	38	2	37	2
5年	39	2	39	2	43	2	39	2
6年	34	1	40	2	40	2	44	2
合計	222	10	225	10	221	10	220	10

(5) 中央台小学校 ※「過小規模」で推移

学年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R 10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	21	1	23	1	16	1	13	1
2年	27	1	21	1	23	1	16	1
3年	29	1	27	1	21	1	23	1
4年	22	1	29	1	27	1	21	1
5年	33	1	22	1	29	1	27	1
6年	21	1	33	1	22	1	29	1
合計	153	6	155	6	138	6	129	6

(I) 東高森台小学校 ※「過小規模」で推移

学年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R 10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	18	1	16	1	21	1	17	1
2年	22	1	18	1	16	1	20	1
3年	21	1	21	1	18	1	16	1
4年	23	1	20	1	20	1	18	1
5年	20	1	22	1	20	1	20	1
6年	18	1	20	1	21	1	20	1
合計	122	6	117	6	116	6	111	6

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
94	3	86	3	74	3
88	3	93	3	85	3
93	3	87	3	92	3
275	9	266	9	251	9

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
47	2
54	2
47	2
148	6

R22 (小)	
生徒数	学級数
38	2
35	1
36	2
109	5

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
27	1	40	2	32	1
37	2	27	1	41	2
32	1	38	2	27	1
32	1	32	1	39	2
38	2	32	1	32	1
40	2	39	2	32	1
206	9	208	9	203	8

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
16	1
19	1
17	1
15	1
13	1
96	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
20	1	12	1	11	1
13	1	20	1	12	1
16	1	13	1	20	1
23	1	16	1	13	1
21	1	23	1	16	1
27	1	21	1	23	1
120	6	105	6	95	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
12	1
13	1
10	1
13	1
8	1
66	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
12	1	19	1	16	1
17	1	12	1	19	1
20	1	17	1	12	1
16	1	20	1	17	1
18	1	16	1	20	1
20	1	18	1	16	1
103	6	102	6	100	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
9	1
10	1
10	1
11	1
8	1
7	1
55	6

イ 石尾台中学校区

(7) 石尾台中学校 ※R18から「小規模」になり、R22では「やや小規模」と推定

学年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	110	4	103	3	100	3	100	3
2年	112	3	110	4	103	3	100	3
3年	115	3	112	3	110	4	103	3
合計	337	10	325	10	313	10	303	9

(4) 玉川小学校 ※R 9から「過小規模」になると推定

学年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (過小)		R 10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	25	1	21	1	25	1	19	1
2年	25	1	25	1	21	1	25	1
3年	33	1	25	1	25	1	21	1
4年	27	1	33	1	25	1	25	1
5年	46	2	27	1	33	1	25	1
6年	39	2	46	2	27	1	33	1
合計	195	8	177	7	156	6	148	6

(5) 石尾台小学校 ※「過小規模」で推移

学年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R 10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	21	1	22	1	14	1	23	1
2年	24	1	21	1	22	1	14	1
3年	33	1	24	1	21	1	22	1
4年	31	1	33	1	24	1	21	1
5年	21	1	31	1	33	1	24	1
6年	29	1	21	1	31	1	33	1
合計	159	6	152	6	145	6	137	6

(I) 押沢台小学校 ※R13から「過小規模」になると推定

学年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R 10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	36	2	25	1	29	1	27	1
2年	21	1	37	2	26	1	30	1
3年	38	2	22	1	38	2	27	1
4年	35	1	39	2	23	1	39	2
5年	25	1	36	2	40	2	24	1
6年	32	1	26	1	37	2	41	2
合計	187	8	185	9	193	9	188	8

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
108	4	76	3	84	3
100	3	108	4	76	3
100	3	100	3	108	4
308	10	284	10	268	10

R19 (小)	
生徒数	学級数
33	1
54	2
38	2
125	5

R22 (やや小)	
生徒数	学級数
42	2
43	2
44	2
129	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
10	1	20	1	11	1
19	1	10	1	20	1
25	1	19	1	10	1
21	1	25	1	19	1
25	1	21	1	25	1
25	1	25	1	21	1
125	6	120	6	106	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
12	1
12	1
15	1
13	1
18	1
15	1
85	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
11	1	13	1	9	1
23	1	11	1	13	1
14	1	23	1	11	1
22	1	14	1	23	1
21	1	22	1	14	1
24	1	21	1	22	1
115	6	104	6	92	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
11	1
15	1
14	1
8	1
11	1
69	6

R11 (小)		R12 (小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
17	1	26	1	13	1
28	1	17	1	27	1
31	1	29	1	17	1
28	1	32	1	30	1
40	2	29	1	33	1
25	1	41	2	30	1
169	7	174	7	150	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
10	1
17	1
16	1
10	1
13	1
82	6

2 高蔵寺ニュータウン地区 学校区図

